

総合型地域スポーツクラブを具体化するために
—「NPO 法人八王子北西部総合型地域スポーツクラブ」の
創設期活動のフィールドワークを通して—
A study on fostering of a “comprehensive community sports club”:
Through the case of “HACHIKITA-SC”

1K06B211-6

指導教員 主査 原田宗彦先生

峰島幸哉

副査 木村和彦先生

【目的】

この卒業論文では、文部科学省（以下「文科省」とする）が推進する「総合型地域スポーツクラブ」（以下「総合型クラブ」とする）を具体化するための課題について、創設から筆者が関わってきた東京都八王子市にある「NPO 法人八王子北西部総合型地域スポーツクラブ」（「NPO 法人はちきた SC」と登記変更申請中、以下「はちきた SC」とする）のフィールドワークから考えていく。

「はちきた SC」の特徴の一つは、文科省が意図していた、既存の体力づくりなどの組織とは異なる、別個の新しい組織として「総合型クラブ」を実現しようとしていることにある。二つに、当初の文科省「総合型クラブ」が提起していなかったシンボルスポーツを、先駆的に当初からサッカーチーム養成で位置づけ、それを地域シンボルスポーツにしていこうとしたことにある。この2点を中心に、「総合型クラブ」の課題を考えていく。

【方法】

文科省が推進している「総合型クラブ」、それを受けた八王子市の「総合型クラブ」育成事業の特徴とその到達点は計画文書、答申、審議会議事録、統計データ等で検討する。

それらとの関係で「はちきた SC」の設立以後の歴史とその特徴、到達点、及び課題を明らかにする。これについては、筆者が2007年9月より現在までボランティアあるいはアルバイトとして、運営に参加したフィールドワークで得た成果とともに、「はちきた SC」の創設者等によるヒアリング及び活動資料を収集・調査し、検討する。

【結果】

「はちきた SC」は、文科省が当初「スポーツ振興基本計画」（2000年）において定義づけ、計画した「総合型クラブ」の典型と言える。また「スポーツ立国戦略」（2010年）で新たに提起された「地域のシンボルスポーツ」として特定の有力スポーツを育成・強化するという構想を先駆的に取り組もうとしてきている。

その到達状況については以下の様であった。

1. コミュニティスポーツの普及

「はちきた SC」は、種目、参加人数に関しては順調に発展してきている。しかし、コミュニティ化の上での他団体との連携はまだあまり展開されていない。

2. NPO 法人の組織普及活動

「はちきた SC」の社員は少数精鋭型だが、その人たちが会員への広報、要望アンケート、交流、登録会員サービスを、地道だが広げてきている。ただ参加者を広げ、その声を集め、交流する広報活動は遅れている。

3. 「アローレはちきた FC」の育成、地域シンボルスポーツ化
サッカーをシンボルスポーツとして位置づけ、まず中学生を対象とした「アローレはちきた FC」の育成を重視している。その結果、未熟ではあるが着実に力をつけてきている。しかしそれを地域のシンボルスポーツとすることについては、まだほとんど手がつけられていない。

4. NPO 法人の事業確立活動

組織体制は不十分さを残しているが、ほぼ計画通り進んでいる。財政的には、繰越金がほとんどなく、ビジネスとして成り立っているとは言えない。しかもその収入は、安定的な収入として見込めない補助金・助成金に依拠している。したがって、事業を拡大して収入を増やさなければならないが、そのための広報費はほとんど出せていない状況である。

【考察】

「はちきた SC」の到達点

「はちきた SC」は、既存のスポーツ組織のような活動実績もなく、ネットワークもなく、ゼロからの出発であるにも関わらず、7年間で約600人の登録会員を持つに至っている。

具体的には、既存スポーツ組織の、無料または廉価で提供されるスポーツサービス、会場使用の実績、補助金活用に対して、さらにフィットネスクラブ等の商業スポーツに対して、それでは充足されない多様なスポーツニーズを、利用料をとって（非営利として）、新たに会場を確保して、新たな組織体制のための財源をつくり出して、ともにニーズを充足させようと、登録会員を迎えていったと言える。

「はちきた SC」の課題

しかし八王子のスポーツ界は既存のスポーツ組織が主流を占めている。行政に対する補助金の充実、クラブハウスへの空き教室活用、公的施設の管理受託等々の課題実現についても、基本的には既存のスポーツ組織にはない、新しい「総合型クラブ」の活動実績とネットワークをつくり出すことが必要となる。

月並みだが、地道な、小口収入である登録会員増、すぐに成果があらわれるわけではないがじわじわと成果が出てくる広報活動、これらをスポーツニーズの掘り起こし、会員の運営参加と結びつけて展開することが課題となる。

そしてここに地域シンボルスポーツの育成を位置づけることで「はちきた SC」が目指すものの実現は長くかかるであろうが、相当地に力強く根を張ったものができるかと期待できる。

